平成14年10月1日発行　毎月1回発行　昭和31年9月12日第3種郵便物認可　第47巻第10号通巻598号

商店建築

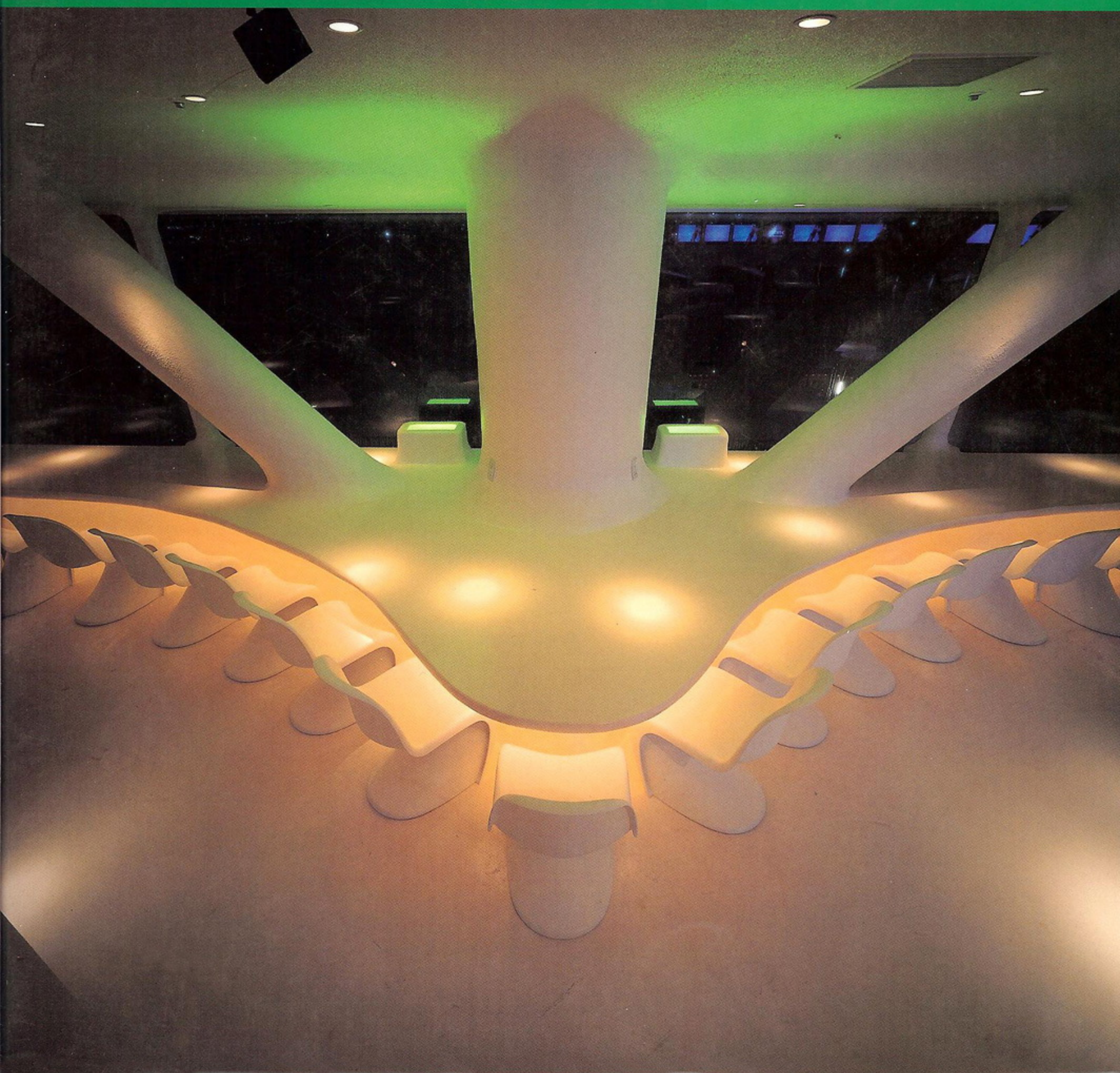
'02-10
SHOTENKENCHIKU
Oct. 2002 Vol.47 No.10

Monthly Magazine
of commercial architecture design,
shop design & interior design
Shotenkenchiku-sha Co.,Ltd.

業種特集
アジアンテースト・ダイニング

特集
オーナメントでつくるスペシャル空間

特集
色がつくる空間



イタリアの職人による本格的なアールヌーボースタイル
名古屋マリオットアソシアホテル52階
ミクニナゴヤ＆ジーニス

——ホテル内レストラン＆スカイラウンジ［愛知・名古屋］

設計／ベント・セブリン　大成建設
協力／照明　ILD　パブ・シャンカー　家具　アルテ
施工／大成建設

「ミクニナゴヤ」ボックス席のディテール

撮影／堀本洋一

「ミクニナゴヤ」ウエーティングエリアより間仕切り家具を通してボックス席を見る

2000年5月，名古屋駅を足元に抱えるツインビル「JRセントラルタワーズ」に開業した「名古屋マリオットアソシアホテル」。その最上階を二分する形で，フランス料理「ミクニナゴヤ」とスカイラウンジ「ジーニス」がある。

片や三國清三氏と業務提携した高級レストラン，片やランチブッフェ，デザートブッフェ，夜は夜景を楽しめるカクテルラウンジと業態は全く異なるが，どちらも52階の統一コンセプトであるアールヌーボーがデザインの基調になっている。

「ミクニ」では入り口パーティション家具と壁側客席のデバイダーに，「ジーニス」ではブッフェカウンターを両翼に配したステージまわりがイタリアの職人のハンドメードによる本格的なアールヌーボースタイル（イタリアではリヴェルティースタイル）でつくられている。

今日では，短い工期と技術者不足から，この種の装飾は既製品を用いるか，FRPやGRGなどの素材で代用されることがほとんどである。しかし，ここ52階に来ると本物だけが発することができるアールヌーボーの磁場のようなものが感じられる。〈編集部〉

「ミクニナゴヤ」テーブル席とウエーティングエリアを仕切る間仕切りの置き家具

「ジーニス」ブッフェカウンター

「名古屋マリオットアソシアホテル・スカイラウンジ」データ

所在地：愛知県名古屋市中村区名駅1丁目1-4 JRセントラルタワー52階　床面積：ミクニナゴヤ366㎡（うち厨房60㎡）ジーニス262㎡（うち厨房115㎡）　着工：1994年8月　竣工：1999年12月20日

営業内容

「ミクニナゴヤ」　開店：2000年5月17日　営業時間：午前11時30分～午後2時30分　午後5時30分～午後10時　定休日：なし　電話：（052）584-1111　経営者：㈱ジェイアール東海ホテルズ　従業員：サービス22人　厨房16人　合計38人（うちパート・アルバイト8人）　客席数：60席　客単価：1万9000円　客回転数：2回　主なメニューと単価：ランチコース5000・8000　ディナーコース1万2000・1万5000

「ジーニス」　開店：2000年5月17日　営業時間：午前11時30分～午前0時　定休日：なし　電話：（052）584-1111　経営者：㈱ジェイアール東海ホテルズ　従業員数：サービス37人　厨房：5人　合計42人（うちパート・アルバイト21人）　客席数：120席　客単価：3000～3500　客回転数：3.8回　主なメニューと単価：チーズ盛り合わせ1600　生ビール800　オリジナルカクテル1000　ランチブッフェ2600　アフタヌーンティーセット2000

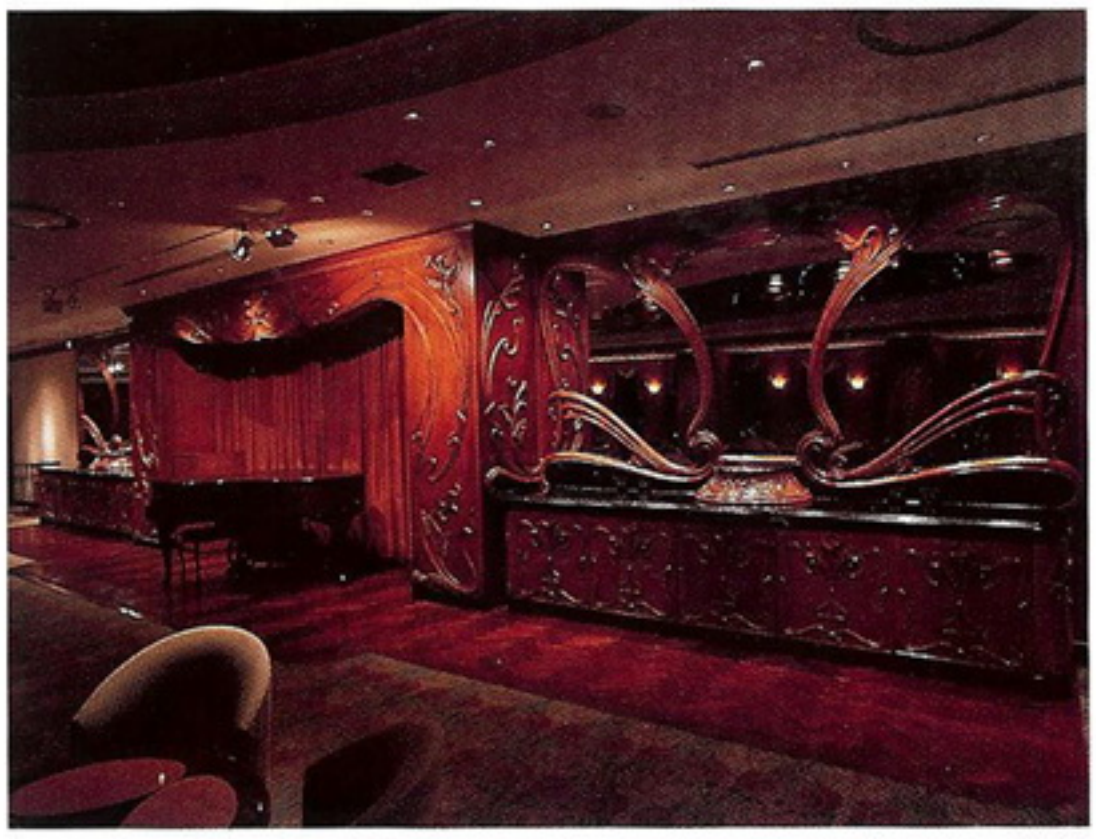
主な仕上げ材料

床：カーペット敷き　一部大理石貼り　壁：クロス貼り　天井：ビニルクロス貼り　家具：ベローウッド　照明器具：ペンダント

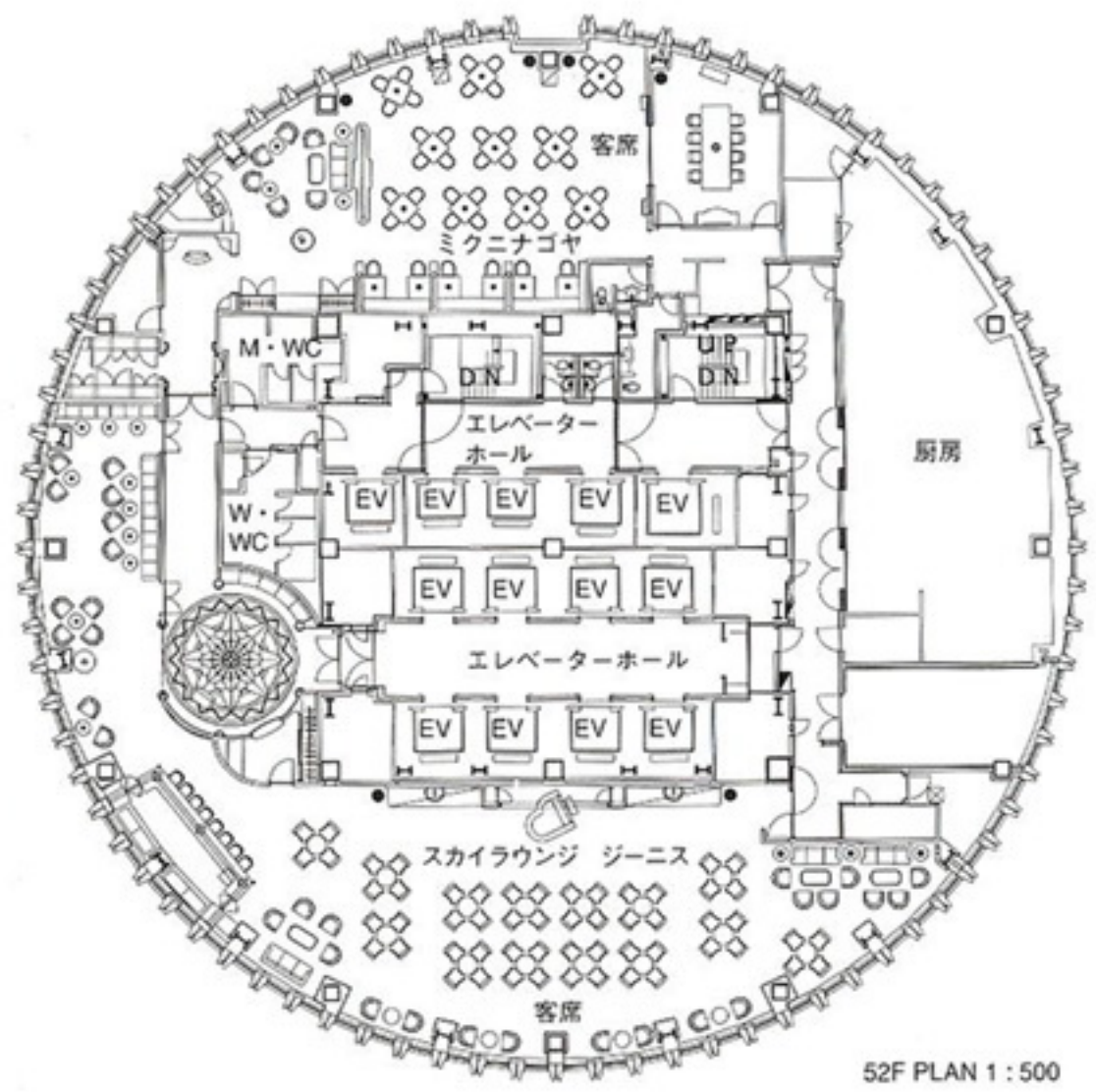
●

オーナメント部分の仕上げ材料

半硬質繊維板＋木軸パネル工法　彫り部／アフリカ産タンガニーカ材　ナシ材（ベローウッド）練り付け　着色ウレタン塗装　アンティーク（パティナ）塗装



「ジーニス」ブッフェカウンターを両翼に持つステージ全景



52F PLAN 1 : 500

Ornamental Space

ブリアンツァの家具工房に発注したアールヌーボーの造形

アルテ 平松 脩

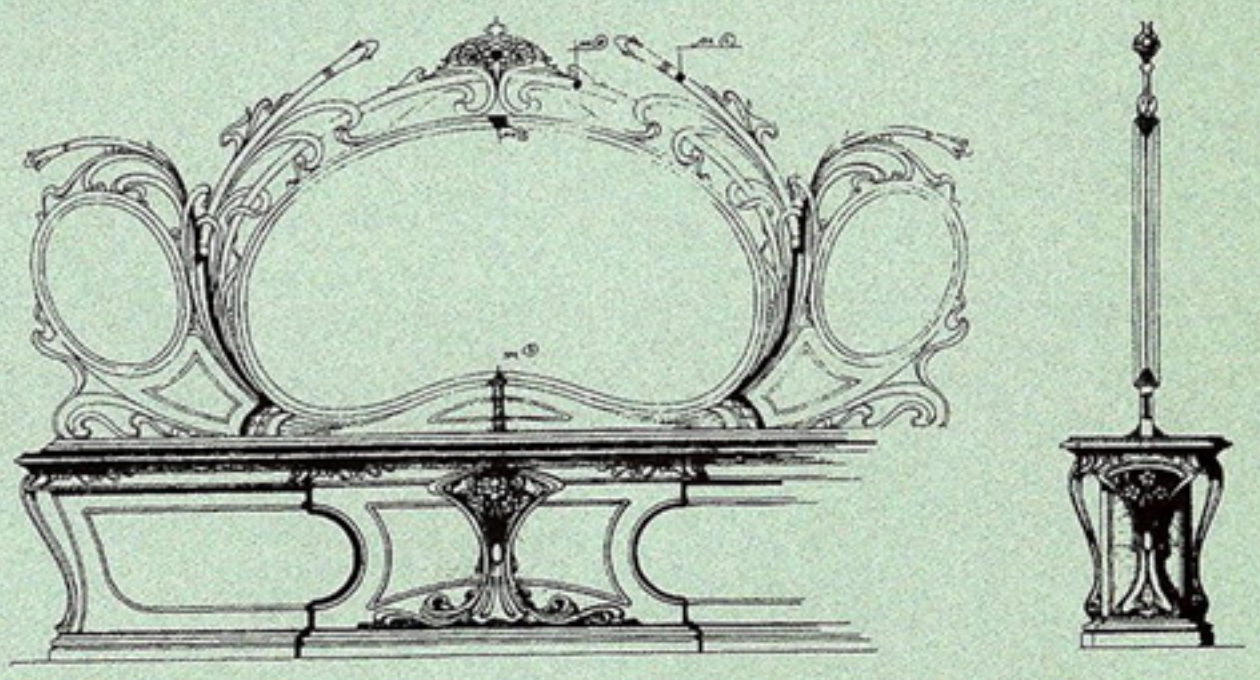
「名古屋マリオットアソシアホテル」の52階には，フランス料理「ミクニナゴヤ」とスカイラウンジ「ジーニス」が入っており，料飲施設の核としてホテルのイメージを左右する重要なフロアです。プロジェクトの当初よりデザインテーマに合わせた“アールヌーボースタイル”のオーナメントでまとめることが決められていました。

1880年代，パリ，ナンシーの両市で生まれたアールヌーボーは，特に家具においての美術的意義が深いものです。現代のホテル建築に要求されるさまざまな制約の中で，これをどのように実現するかが大きな課題となりました。伝統を継承した作画能力を持つモデリスタと出会い，当時の製作システムを現在にアレンジし再生することが肝心であると考え取り組み始めました。

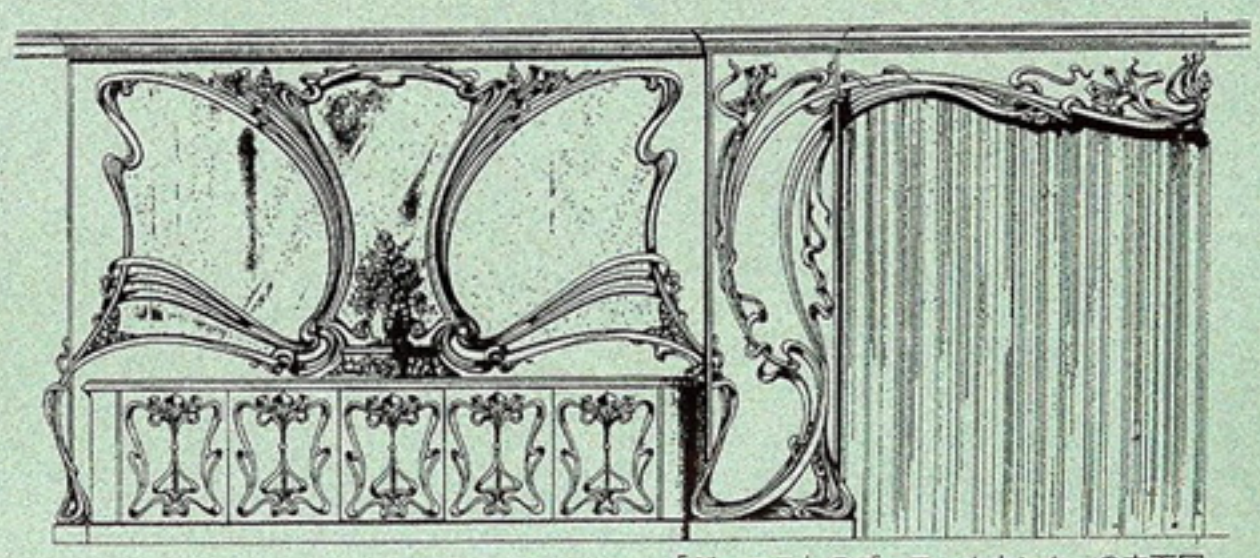
北イタリア・ブリアンツァ地域には，3千あまりの家具工房があり，その中でアールヌーボーを継承した“リヴェルティ・スタイル”を得意とする製作工房とのコラボレーションが可能になり，優れたモデリスタとの出会いを得ることができました。まさに幸運といえることです。

私たちの提案内容は，安易なスタイルの模倣，復元から生まれるある種の焦燥感だけは避けたいと思っていました。オリジナルの装飾モチーフとして植物文様の完全復活を目指し，職人の技による手彫りの精密さ，曲線による美しさを構成の基本としました。手仕事ゆえに生じる工程管理の難しさは，スタート時から予想された大きなリスク要因でした。しかし，職人の仕事を熟知し，原寸大での検討を重ねることにより，製作集団が一体となってそれを乗り越えることができました。プロジェクトを通じていえることは，さまざまな職人が，継承された個々の技を持って一つの造作物に仕上げていく狂いのないチームワークの素晴らしさです。そこには“創る”という共通意識があってみんなを支配しています。今日のプロジェクトにおいて，伝統に範を求めることは多くの困難がつきまといますが，製作側との“創る”という意識の共有が芽生えた時に，それを乗り越える勇気も与えられます。それこそが，正に伝統の継承ではないでしょうか。

次頁で製作過程を実際に沿ってざっと見てみることにします。



「ミクニナゴヤ」の間仕切り家具の立・側面図



「ジーニス」のブッフェカウンターの立面図

①原寸のパネルにモデリスタが直接作画していく

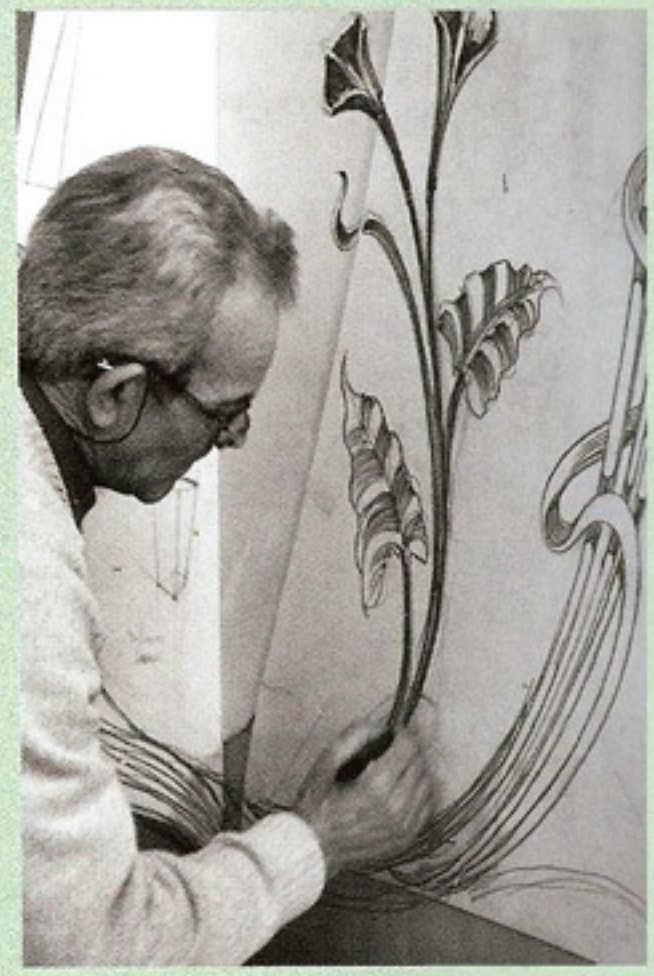
②必要なところには断面も描き込まれる

ブリアンツァの工房における製作過程

写真／堀本洋一

まず作画能力のあるモデリスタとの出会いが肝心となる。モデリスタとは，様式の伝統を継承した作画能力を持ち，複雑な造形を製作図に置き換え職人の技を導き出す。原寸大での図面が基本であり，表現のポイントは彫り職人が忠実に再現できる陰影にある。必要なディテールは部分断面も描き添えた完璧な伝達手段としての図面である。今回は建築空間の仕事ということで，建て込まれたパネルに直接描いていくことになる。(①③)　そのため縮尺1/10模型にて，事前検討を行う。次に原画は後でアセンブリーがしやすいように，いくつかのピースに分割された「型」となる。建築現場で組み立て，据え付けをするときに生じる，床，天井工事との取り合いの問題解決にも，最初から最後まで原寸大で考えるという方法が威力を発揮する。

この「型」を基本に木取りの行程に移る。(④⑤)　大まかな木取りを終えた木片が，彫り職人に回り原画の陰影が立体に置き換えられていく。(⑦)　モデリスタの原画から彫り職人の作業まで，仕上がりの造形イメージはしっかりと共有の映像としてとらえられている。このプロセスこそがまさに伝統技術の伝承といえるのである。その後，細部に加工を施し，塗装仕上げの行程に入るがここで仮組み立ての検査を綿密に行うことが大切で，塗り厚の調整もでてくる。(⑧⑨⑩)



③細部に陰影をつけていくモデリスタ

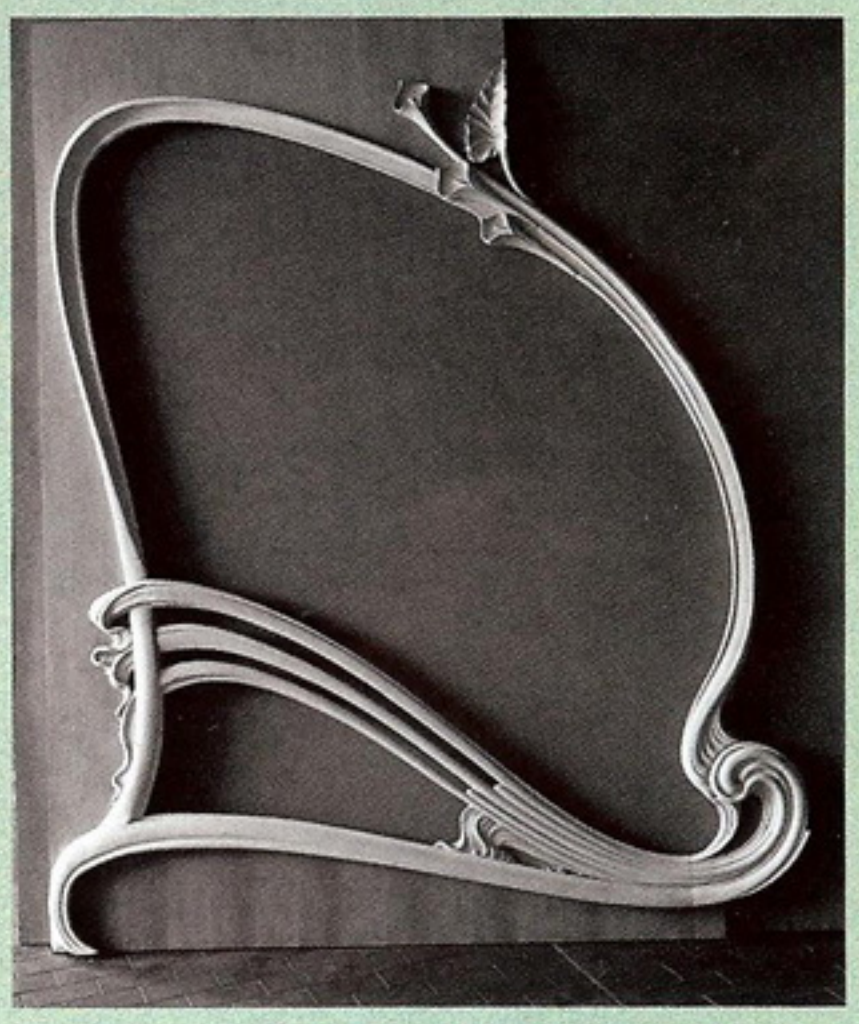
④大まかな木取り

⑤木取りを終えたピース

Photos by Yoichi Horimoto

⑥工房風景

⑦陰影が堀り込まれる



⑧いくつかのピースが組まれてより大きなピースへ

Ornamental Space

⑨完成したピース

⑩検討のための仮組み立て